

第2学年国語科学習指導案

日 時：令和3年11月2日5校時
対象学級：八幡平市立西根中学校2年1組
指 導 者：教諭 坂本晶子

1 単元名 「平家物語」の「推し」の魅力を説明しよう

教材名 「扇的 — 『平家物語』から」(光村図書 国語2)

古典の世界を広げる「敦盛の最期」(光村図書 国語2)

補助教材 ビギナーズ・クラシックス「平家物語」(角川書店)

まんがで読破「平家物語」(イースト・プレス)

2 内容のまとめ

第2学年

〔知識及び技能〕 (3) 我が国の言語文化に関する事項

イ 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を
知ること。

〔思考力、判断力、表現力等〕 C 読むこと

(1) イ 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などに
ついて考えたりして、内容を解釈すること。

3 単元の目標

(1) 現代語訳を手掛かりに作品を読み、当時のものの見方や考え方をすることができる。

〔知識及び技能〕 (3) イ

(2) 内容を解釈し、登場人物の言動や行動などについて考えることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕 C (1) イ

(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝えあおうと
する。
「学びに向かう力、人間性等」

4 単元について

(1) 生徒について

ア 小学校5年時「古典の世界(一)」の学習で、「竹取物語」「平家物語」「徒然草」「おくのほ
そ道」の冒頭部分を音読して響きやリズムを味わい、6年時「伝えられてきたもの」で、古典文学
の概要に触れている。中学校では、「竹取物語」「枕草子」で歴史的仮名遣いのきまりと文語文法
の特徴を理解し、現代語訳と対応させて、内容を理解する方法を学んでいる。

イ 1年時「竹取物語」の学習において、「くらもちの皇子」の人物像を分析するという学習経験が
ある。

(2) 教材について

ア 本教材は、漢語が多く、登場人物が増えるという点で複雑であるが、印象深い場面や心情の揺れ
が随所にあり、読み応えのある教材である。

イ それぞれの立場で平家と相対する「源義経」「那須与一」「熊谷次郎直実」の心情について、教
材との対話によって想像したり、他者との対話によって様々な視点に触れたりすることによって、
考えが深められる教材である。

(3) 指導について

ア 古典作品は、言動をとらえるための正しい読みに時間を要する。明確かつ読みたくなる現代語訳
を用い、読みの手掛かりを示すことで、古典に親しむ態度を養えるように指導する。

イ 一つの事柄を根拠とした場合でも、注目する視点や生徒の経験、語彙などの違いから、導き出す人物像は異なる。人物像を表す様々な語をあらかじめ示すことで、自己との対話が深まるように指導する。さらに、他者との対話を通して様々なとらえ方があることを知ると同時に、妥当性を判断しながら考えを深められるように指導し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。

(4) 研究との関わり

ア 主体的に学ぶ生徒の具体的な姿

課題解決を意識して進んで教材と向き合い、分析したり解釈したりすることができる。それをもとに、自分の考えを他者に話して伝えたり、記述したりできる。その際、他者との対話を通して、自分の考えを広げたり深めたりする変容が見られること、考えの妥当性を適切に判断できることが望ましい。

イ 対話的な学びの充実について

「自分の考えを持つ」→「自分の考えを他者に伝える」→「互いの考えを交流する」→「自分の考えを広げたり深めたりする」→「変容した自分の考えを交流する」という学習活動の見通しを明確に示し、3つの対話の場面を適切に設定することで、深い学びを実現したい。

A【自己との対話】

課題解決のために、これまでの学習や自分の知識や経験と関連付けながら、自分の考えを持つこと。その考えを適切に話したり書いたりして表現すること。教材との対話や他者との対話をもとに自分の考えを広げたり深めたりすること。課題に対する振り返りを記述すること。

B【教材との対話】

身に付けている知識・技能をもとに、教材を分析して内容を読みとったり解釈したりすること。

C【他者との対話】

教師の発問や、他者の発言や意見に対する自分の考えを伝えること。互いの考えの妥当性を吟味しながら交流することによって、考えの変容が生まれること。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①現代語訳などを手掛かりにして作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3) イ ②作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3) ア	①「読むこと」において、複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈している。 C (1) イ	①現代語訳などを手掛かりに粘り強く作品を読み、学習課題に沿って考えようとしている。

6 指導と評価の計画

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	○冒頭部分を音読し、和漢混交文の響きを味わう。 ○「平家物語」の概要を知る。	・小学校の教科書を用いて既習内容を確認する。 ・平曲の映像を示す。	

2	<p>○「扇的」事件が起こるまでの経緯と概要をとらえる。</p> <p>○古典の文章の調子や響きを意識して音読する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的背景や人物相関を理解しやすい図表を活用する。 ・歴史的仮名遣い「アウ」を重点的に確認する。 	<p>【知識・技能①】<u>学習プリント</u> 5W1H、平家と源氏の様子を正しくとらえているか確認する。</p> <p>【知識・技能②】<u>観察</u> 文語文のきまりに従って音読しているか確認する。</p>
3 4	<p>○「扇的」事件を平家と源氏がどのように受け止めたのかを考える。</p> <p>○与一がどのような思いで弓を射たのかを考える。</p> <p>○与一の人物像をまとめる。</p> <p>○文章の表現の工夫や効果を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・与一への評価「あ、射たり」「情けなし」について、それぞれの立場での根拠を確認する。その際、戦で人の命を奪うことの意味に触れ、考えを深められるようにする。 ・人物像を表す語を示す。 ・既習事項の擬音語、擬態語、対句、係り結びを確認する。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度①】<u>学習プリント</u> 人物の置かれた状況を正しくとらえた上で、根拠をもって考えをまとめられているか確認する。</p> <p>【思考・判断・表現①】<u>学習プリント</u> 言動を根拠として人物像を考えて記述しているか確認する。</p>
5 6	<p>○「扇的」事件前後の戦況を知る。</p> <p>○「弓流し」「敦盛の最期」のあらすじをとらえる。</p> <p>○義経と直実の人物像をまとめる。</p> <p>○3人の中から「推し」を1人決め根拠を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の経過や戦の場所を理解しやすい図表を活用する。 ・登場人物の行動や発言を一覧できる資料を準備する。 ・人物像を表す語を示す。 ・どの人物にも共感しにくい面もあるが、それを上回る魅力を感じる面がないか考えるように助言する。 ・共感しにくい人物からの消去法で選ぶことのないように助言する。 ・記述に苦手意識のある生徒には、文章の型を示す。 	<p>【思考・判断・表現①】<u>学習プリント</u> 言動を根拠として人物像を考えて記述しているか確認する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度①】<u>学習プリント</u> 根拠を持って魅力を感じる人物を選んでいるか確認する。</p>
7 本時	<p>○同じ「推し」を選んだグループで根拠を交流し、自分の根拠を磨く。</p> <p>○磨いた根拠をグループで共有し、特に優れたものを学級で共有する。</p> <p>○学習を振り返り、改めて「推し」の魅力を書き記述する。また、「推し」が変わった場合はその根拠を記述する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・有意義な意見交流になるようにグループ構成を工夫する。 ・他者の考えを共感的にとらえ、自分にはない発想を記録するように助言する。 ・「推し」の魅力が特に伝わる文章を選ぶように助言する。 ・振り返りの視点を明確に示す。 ・考えの変容を記述できるように、十分な時間を確保する。 	<p>【思考・判断・表現①】<u>学習プリント</u> 自分の気づかなかった根拠や視点をメモした上で、用いる語句や表現を工夫して新たな根拠を記述しているか確認する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度①】<u>観察</u> 自分が選んでいない人物の根拠も興味を持って聞いているか確認する。</p> <p>【思考・判断・表現①】<u>学習プリント</u> 考えの深まりや広がりか記述されているか確認する。</p>

7 本時の指導（7時間目／全7時間）

(1) 目標 同じ「推し」を選んだグループで意見を交流し、自分の根拠を磨くことができる。

(2) 展開

段階	学習の段階	生徒の活動	教師の指導／対話の位置づけ／評価等
	ウォーミングアップ学習	・既習事項の確認	<p><既習事項の復習、基礎基本の定着></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「平家物語」の基本事項、歴史的仮名遣い「向かふべからず」「はづさせたまふな」を確認する。
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ●資料提示 ●課題設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・敦盛を「推し」に選んだ授業者の文章を読む。 ・学習課題をとらえ、本時の学習の流れを確認する。 	<p><既習事項との関連付け></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「推し」を決める=人物の魅力を感じることの根拠は、その人物の言動であることを想起させる。 <p><学習課題解決への見通しを持たせる></p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択する根拠によって人物のとらえ方が変化することや、複数の根拠の中から人物をとらえるために不可欠なものを見極めることを確認し、学習課題解決の必然性を感じさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>「推し」の魅力をもっととらえているだろうか。</p> </div>
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ●情報分析 ●思考・判断 ●表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ人物を「推し」に選んだグループで、根拠とした言動を確認する。 ・根拠とした言動にどんな魅力を感じたか、なぜ魅力を感じたか意見交流する。 ・「推し」の根拠を書く。 	<p><情報から読み取り方を指導し、事実をあげさせる></p> <ul style="list-style-type: none"> ・【対話B】指摘した部分が、その人物の言動であり、魅力に結びつくか確認させる。 <p><根拠や理由等を問い、情報から考えられることの実偽や可否を判断させる></p> <ul style="list-style-type: none"> ・【対話C】根拠とした言動から、人物のどのような魅力を感じるか、また、その言動になぜ魅力を感じるか意見交流させる。その際、意見を統一するのではなく、自分と異なるとらえ方が妥当であるかを考えさせるようにする。 <p><情報を総合して自分の考えを組み立て表現する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・【対話A】グループでの意見交流をもとに、その人物を「推し」とした根拠を文章化させる。
終結 10分	●振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの代表者の「推し」の根拠を聞き、3人の人物の魅力を確認し、振り返りを記入する。 ・振り返りを共有する。 	<p><学んだことを振り返る視点を与え、学習内容をより確かなものにする></p> <ul style="list-style-type: none"> ・【対話A】「平家物語」の主題を想起させ、それぞれの人物が、その時代の中で懸命に生きていたことに気づかせる。 ・古典作品を読むことの価値を感じさせる。